



## 2024年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2024年2月8日

上場会社名 株式会社 秀英予備校  
コード番号 4678 URL <https://www.shuei-yobiko.co.jp>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長  
問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理本部長  
四半期報告書提出予定日 2024年2月14日  
配当支払開始予定日  
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東  
TEL 054-252-1792  
(氏名) 渡辺 武  
(氏名) 渡辺 喜代子

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年3月期第3四半期の連結業績(2023年4月1日～2023年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	7,529	4.1	57		47		561	
2023年3月期第3四半期	7,854	1.4	157	4.0	162	0.3	51	

(注) 包括利益 2024年3月期第3四半期 562百万円 ( %) 2023年3月期第3四半期 51百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	83.70	
2023年3月期第3四半期	7.64	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期第3四半期	8,682	4,084	47.0	608.73
2023年3月期	10,169	4,713	46.4	702.51

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 4,084百万円 2023年3月期 4,713百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期		0.00		10.00	10.00
2024年3月期		0.00			
2024年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,600	1.2	300	25.7	314	22.7	300		44.71

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期3Q	6,710,000 株	2023年3月期	6,710,000 株
期末自己株式数	2024年3月期3Q	319 株	2023年3月期	319 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期3Q	6,709,681 株	2023年3月期3Q	6,709,681 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、円安を背景に自動車、電気機器などの輸出産業は順調に推移しております。一方、原材料費の高騰による物価高や人手不足による人件費の増加は、中小企業の経営を圧迫するところとなっております。過剰債務による中小企業の倒産も増加しております。また、物価高は勤労者の実質賃金を低下させており、個人消費は低迷しております。

当業界におきましては、過当競争が続いており、企業の統廃合、企業間の業務提携が進んでおります。また、コロナ禍を通して、オンライン授業の拡充・ライブ授業との併用、さらにオンラインによる保護者会、入試説明会の実施など業界も大きく変化してきております。

このような経営環境において、当社グループにおきましては、次年度の生徒募集・確保に向けての大きなイベントである冬期一般生募集と講習明けの入学活動を重点に取り組んでまいりました。

また、当社グループでは、小学校低学年からの生徒の“囲い込み”に注力しており、当第3四半期において「公開実力テスト」を実施し、将来の売上に寄与する土台作りにより一定の成果を挙げることができました。しかしながら、今期におきましては、過去の新型コロナウイルスの影響により、受講単価の高い受験学年の中3生及び高3生が対前年で少なかったため、売上高は減少いたしました。

営業費用におきましては、HPの改修・「公開実力テスト」開催によるCM広告費の発生による広告宣伝費の増加があるものの、発注数・作成単価見直しによる教材費の削減、賃借料の削減、無形固定資産の償却終了に伴う減価償却費の減少により、全体として減少するところとなりました。しかしながら、売上の減少を補うまでには至りませんでした。

営業外損益におきましては、有利子負債の減少に伴い、支払利息が減少いたしました。

特別損益におきましては、当初計画に対し9月入学が不振であった1校舎及び移転の意思決定をした1校舎につき減損損失を計上しております。

以上の結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間の売上高は7,529百万円（前年同四半期は7,854百万円）、営業損失は57百万円（前年同四半期は営業利益157百万円）、経常損失は47百万円（前年同四半期は経常利益162百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は561百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益51百万円）となりました。

なお、季節的変動要因として、当社グループの生徒数は小中学部・高校部ともに夏期講習・冬期講習等の講習に参加した一般生が、それぞれ9月、1月に入学するため、売上高・営業利益ともに第2四半期以降に増加するところとなっております。一方、営業費用につきましては、人件費・賃借料等が毎月固定的に発生いたします。したがって、第1四半期に比べ第2四半期以降の収益性が高くなる傾向にあります。

セグメントの業績を示すと次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、前期まで「その他の教育事業」に含めておりました自宅学習部門につき、営業管理体制をより強固にするため組織変更を行いました。それに伴い、前期までの自宅学習部門の実績につきましては、報告セグメントの区分を「小中学部」に変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

#### (小中学部)

小中学部におきましては、中2生以下の低学年の生徒数はほぼ順調に推移しておりますが、中3生の生徒数が対前年減少となっております。また、業態別生徒数は、集団部門と講師による個別指導部門は、前期末に閉鎖した校舎を除いた既存校においては対前年増加、映像を使った個別指導部門は前年を下回るところとなっております。売上高におきましては、3年前の新型コロナウイルス禍による募集の影響を受けた高単価の現中3生が減少したことを要因とし、全体として減少いたしました。ただし、オンライン特別講座は前期に引き続き、順調に売上高を増加させることとなっております。営業費用につきましては、適正な教材管理、前期末に閉鎖した校舎の賃借料の減少等により、全体として前年同四半期を下回るところとなっております。結果として、小中学部の売上高は6,464百万円（前年同四半期は6,729百万円）、セグメント利益は499百万円（前年同四半期はセグメント利益663百万円）となりました。

(高校部)

高校部におきましては、高単価の高3生が減少しており、売上高は前年を下回るようになっております。一方、営業費用につきましては、労務費の削減、保守修繕費等の減少により前年同四半期を下回るようになっております。結果として、高校部の売上高は997百万円(前年同四半期は1,083百万円)、セグメント利益は106百万円(前年同四半期はセグメント利益161百万円)となりました。

(その他の教育事業)

その他の教育事業における売上高は、予算を下回るようになっております。要因は、高校生対象のオンライン講座の受講生が順調に推移しているものの、F Cの総生徒数が減少しているためであります。結果として、その他の教育事業の売上高は67百万円(前年同四半期は42百万円)、セグメント損失は47百万円(前年同四半期はセグメント利益17百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて960百万円減少し、1,558百万円となりました。これは主として、翌月分授業料、冬期講習費用の入金タイミングのずれにより現預金が減少したためであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて525百万円減少し、7,117百万円となりました。これは主として、有形固定資産の減価償却が進んだこと、移転の意思決定をした校舎の減損処理に伴い有形固定資産が減少したためであります。

この結果、資産合計は前連結会計年度末に比べて1,487百万円減少し、8,682百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて693百万円減少し、1,831百万円となりました。これは主として、12月末在籍者の翌月分授業料の回収が、休日による入金時期の変動により契約負債が減少したためであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて164百万円減少し、2,765百万円となりました。これは主として、長期借入金、リース債務及び私募債の返済が進んだためであります。

この結果、負債合計は前連結会計年度末に比べて857百万円減少し、4,597百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて629百万円減少し、4,084百万円となりました。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末の46.4%から47.0%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2023年11月8日に公表いたしました通期の連結業績予想の変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,961,660	751,537
受取手形、売掛金及び契約資産	126,136	380,188
商品	80,082	56,693
貯蔵品	14,077	13,732
その他	341,143	365,623
貸倒引当金	△4,518	△9,268
流動資産合計	2,518,580	1,558,507
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,361,290	1,889,737
土地	3,145,363	3,259,980
その他(純額)	66,776	56,119
有形固定資産合計	5,573,429	5,205,838
無形固定資産		
	34,886	23,624
投資その他の資産		
敷金及び保証金	1,746,994	1,614,845
退職給付に係る資産	200,272	202,927
その他	90,804	74,030
貸倒引当金	△3,245	△4,020
投資その他の資産合計	2,034,825	1,887,783
固定資産合計	7,643,142	7,117,245
繰延資産		
社債発行費	7,394	6,266
繰延資産合計	7,394	6,266
資産合計	10,169,117	8,682,019
<b>負債の部</b>		
流動負債		
短期借入金	290,000	310,000
1年内償還予定の社債	40,000	40,000
1年内返済予定の長期借入金	235,996	230,714
未払金	569,583	611,660
未払法人税等	134,158	20,215
契約負債	570,836	56,850
賞与引当金	163,568	43,739
店舗閉鎖損失引当金	46,496	3,873
その他	474,202	514,656
流動負債合計	2,524,842	1,831,709

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
<b>固定負債</b>		
社債	160,000	140,000
長期借入金	282,154	248,909
繰延税金負債	69,587	67,314
退職給付に係る負債	928,373	937,131
資産除去債務	614,274	594,593
その他	876,211	777,922
固定負債合計	2,930,601	2,765,871
<b>負債合計</b>	<b>5,455,444</b>	<b>4,597,581</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	2,089,400	2,089,400
資本剰余金	1,835,655	1,835,655
利益剰余金	803,593	174,894
自己株式	△154	△154
株主資本合計	4,728,494	4,099,795
<b>その他の包括利益累計額</b>		
退職給付に係る調整累計額	△14,821	△15,357
その他の包括利益累計額合計	△14,821	△15,357
純資産合計	4,713,673	4,084,437
<b>負債純資産合計</b>	<b>10,169,117</b>	<b>8,682,019</b>

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年12月31日)
売上高	7,854,783	7,529,955
売上原価	6,669,132	6,563,905
売上総利益	1,185,651	966,050
販売費及び一般管理費	1,027,736	1,023,584
営業利益又は営業損失(△)	157,914	△57,534
営業外収益		
受取利息	6,558	5,370
受取配当金	2,304	2,266
受取賃貸料	12,163	14,795
その他	9,882	5,540
営業外収益合計	30,909	27,972
営業外費用		
支払利息	19,307	12,507
その他	7,397	5,575
営業外費用合計	26,704	18,082
経常利益又は経常損失(△)	162,120	△47,644
特別損失		
店舗閉鎖損失	-	4,920
店舗閉鎖損失引当金繰入額	40,487	2,565
減損損失	27,983	470,208
特別損失合計	68,470	477,693
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	93,649	△525,337
法人税、住民税及び事業税	43,187	38,537
法人税等調整額	△865	△2,273
法人税等合計	42,321	36,264
四半期純利益又は四半期純損失(△)	51,327	△561,602
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	51,327	△561,602

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	51,327	△561,602
その他の包括利益		
退職給付に係る調整額	△181	△536
その他の包括利益合計	△181	△536
四半期包括利益	51,145	△562,138
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	51,145	△562,138
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			
	小中学部	高校部	その他の教育事業	計
売上高				
集団(黒板を使った集団授業)	3,620,408	1,021,156	—	4,641,564
iD(映像を使った個別授業)	842,554	—	—	842,554
個別(講師による個別指導)	2,241,786	—	—	2,241,786
その他	24,576	61,916	42,383	128,876
顧客との契約から生じる収益	6,729,326	1,083,072	42,383	7,854,783
外部顧客への売上高	6,729,326	1,083,072	42,383	7,854,783
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	15,716	15,716
計	6,729,326	1,083,072	58,100	7,870,499
セグメント利益	663,394	161,965	17,161	842,521

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	842,521
セグメント間取引消去	17,643
全社費用(注)	△702,250
四半期連結損益計算書の営業利益	157,914

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

固定資産の減損損失として、27,983千円を計上しております。

セグメントごとの減損損失計上額は、当第3四半期連結累計期間においては小中学部8,145千円、報告セグメントに帰属しない全社資産19,838千円であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			
	小中学部	高校部	その他の教育事業	計
売上高				
集団(黒板を使った集団授業)	3,607,489	945,765	—	4,553,255
iD(映像を使った個別授業)	686,562	—	2,003	688,565
個別(講師による個別指導)	2,152,311	—	—	2,152,311
その他	18,335	51,905	65,582	135,823
顧客との契約から生じる収益	6,464,698	997,671	67,585	7,529,955
外部顧客への売上高	6,464,698	997,671	67,585	7,529,955
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	14,249	14,249
計	6,464,698	997,671	81,835	7,544,204
セグメント利益又は損失(△)	499,472	106,304	△47,735	558,042

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	558,042
セグメント間取引消去	19,519
全社費用(注)	△635,095
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△57,534

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、「その他の教育事業」に含めておりました自宅学習部門につき、営業管理体制をより強固にするため組織変更を行いました。それに伴い、前期までの自宅学習部門の実績につきましては、報告セグメントの区分を「小中学部」に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の報告セグメントの区分方法により作成しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

固定資産の減損損失として、470,208千円を計上しております。

セグメントごとの減損損失計上額は、当第3四半期連結累計期間においては小中学部265,171千円、高校部205,036千円であります。